

共に  
「学び、思いやり、鍛え」  
歩む

八代中学校「校長室だより」 No.13

校訓

自主 誠実 工夫

令和7年1月8日（水）

## 箱根駅伝から学んだこと（3学期始業式校長式辞）

今年の冬休みに、私の心に残ったことがあります。それは、1月2日と3日に開催されたスポーツイベントです。何でしょうか？そう、箱根駅伝です。

箱根駅伝は、関東地方の大学駅伝競技会です。出場校は20校です。今年の箱根駅伝に予選なしで出場できるシード権を獲得した大学は、去年の箱根駅伝1～10位の10大学です。今年の箱根駅伝に出場することができる残りの大学は、10月の予選会で1～10位に入った10大学となります。箱根駅伝の往路は、1月2日、東京都千代田区大手町の読売新聞東京本社ビル前を出発し、神奈川県足柄下郡箱根町の芦ノ湖までの107.5kmを5人の走者でつなぎます。

箱根駅伝の復路は、芦ノ湖から大手町までの109.6kmを5人の走者でつなぎます。

さて、今年の箱根駅伝。2日の往路を引っ張ったのは、去年13位、予選会から勝ち上がってきた中央大学でした。1区の3年生吉井選手がスタート直後から独走状態でした。強豪校を引き離し、2区にタスキをつなぐと、そこから1度もトップを譲ることなく、5区の4年生の園木選手にタスキをつなぎました。5区は20.8km、標高差840mの山登り。5区を45秒差でスタートした青山学院大学の4年生若林選手が迫ります。9.5kmを過ぎたところで、トップを走る中央大学をとらえ、首位逆転しました。そのまま、ゴールに飛び込んだ青山学院大学が、まずは2年連続の往路優勝をつかみました。

翌日の復路は時差スタート。まずはトップの青山学院大学がスタートし、1分47秒差で2位の中央大学がスタートして、その後を追いかけます。6区は5区とは反対の山下り。ここでも強さを見せる青山学院大学の4年生野村選手が力走を見せ、区間新記録で7区へつなぎます。その後もトップを走り続ける青山学院大学。そして、最後までトップを守り切り、青山学院大学は大会新記録で総合2連覇を達成しました。

青山学院大学はどうして、こんなにも強いのでしょうか。私なりに考えてみました。青山学院大学の選手は、今年の箱根駅伝に出場するために、1年前から一生懸命練習してきました。自分の走力や持久力を鍛えたり、自分の体をけがや疲労から守ったり、心身の健康管理を徹底したり、バランスの良い食事を心掛けたりする生活を、1年間、毎日毎日繰り返してきた、その積み重ねによって身に付いた力が、箱根駅伝で発揮されたのだと思います。また、箱根駅伝は10名でタスキをつなぐものですから、チーム全員が、このような生活を1年間繰り返してきたのだと思います。箱根駅伝で走るためにチーム全員が共に頑張ること、まさに、良いチームワークがあったからこそ、成し得た2連覇だったと思います。

みなさんの学級もこの箱根駅伝と同じだと思います。3年生は卒業式の日、1、2年生は3学期の終業式の日、一人一人が去年よりも成長したことを、自分の学級が居心地の良い学級であることを実感できるようになってください。去年よりも成長した自分になるように、一生懸命勉強したり、一生懸命運動したり、一生懸命友達と関わったり、健康管理をしっかりしたり、一生懸命日々の生活に取り組んでいってください。また、自分一人ではなく、学級の仲間みんなが、互いに助け合ったり、協力し合ったりできる良いチームワークを育てていってください。

77年の歴史を誇る八代中学校最後の学期、この3学期が、八中生にとって、実り多い、更に大きく成長する学期になることを期待しています。

（文責 河野 靖）